



本書の初版が発行されたのが2002年6月であり、その後2008年3月に第3版が、そして今回第4版を発行する運びになった。編集者一同は改版の度に、最新の内容を分かりやすく盛り込む努力をしている。

2008年以降の動きを見ると、幼稚園教育要領、小・中・高校の学習指導要領も改訂されて、2009年度から順次実施されている。また、学校保健法が学校保健安全法として改正施行され、学校給食法も改正された。保育所保育指針、保育士課程養成カリキュラムも改訂され、保育関係用語などにも変更があり、母子健康手帳も改訂された。予防接種に関しても大きな動きがあり、学校給食では食物アレルギーによる死亡事故があつて、子どものアレルギーに関心が高まっている。

2011年3月11日には東日本大震災と呼ばれることになった大きな災害が起こり、これに伴う福島原発事故が重なり、現在なお、災害地域の子どもたちには大きな問題が生じている。これは被災地域にかぎらず、今後同様の災害が日本のどこで、いつ起こっても不思議ではないことを考えると、日本全体の問題として十分に考えておかななくてはならないことである。

以上の状況を踏まえて、今回の改訂に当たっては、2008年以降の各分野における動向を取り入れ、単に内容を新しく書き改めるということではなく、第3版の各章内容について編集者一同が十分に話し合い、たとえば思春期にかかわる発育発達については第3章に、その他の問題は第2章に振り分けて記述の一貫性を保つことにした。子どものアレルギーについてもエビペンを含めて新しい知見を盛り込んだ。予防接種についてはHibワクチン、肺炎球菌ワクチン、ヒトパピローマワクチンなど新しい動きも取り入れてある。そして大災害と子育て、放射線被曝についても取り上げた。今回の大災害は地震に加えて、津波による広域の災害と原子力発電所の事故という複合的な災害が新しい問題提起をしているのである。

このまったく内容を新しくした「新しい時代の子どもの保健」が読者の期待に沿うことを願って結びとする。

平成26年6月  
編集責任 村田光範

